

ある中小都市にみる子どもと親 I

井上 栄子
(宇都短期大学)

くはじめに

青少年の健全育成にあたっては、家庭が重要な役割を担っていることは言うまでもなく、とりわけ近年の核家族化がすすむ中、家庭基盤のより一層の充実をはかることが急務ではないかと思われる。そこで本研究では、家族の重要な構成要素である父と子、母と子の関係を同等の重みのあるものと考え、日常的な身がらについて、父にあてはめてみる場合、母にあてはめてみる場合の子どもの反応を比較検討し、父母間の反応の相違点、また子どもの発達、性差による変化等を明らかにしていくことを目的とした。

く方法

被験者 宇都市内全域を、商業、工業、農業、住宅地域に分け、ある特定の地域に片寄ることのないよう考慮しながら、小学校10校、中学校5校を抽出し、高校については市内全域から子どもが集まってきたと見え、アンケート調査実施を承諾してもらった5校について実施した。被験者の平均は、小学校4年生から高校3年生までとし、2歳間隔で行い、小学4、6年生1862名、中学2年生799名、高校1、3年生1192名分を回収した。そのうち、欠損家庭のもの、現在両親と同居していないもの、回答内容の不完全なものを除外した結果、有効資料数は表1に示す通りとなった。

表1. 被験者の内訳

	男	女	合計
小4	368人	395人	763人
小6	408	399	807
中2	310	365	675
高1	310	232	542
高3	284	194	478
合計	1680	1585	3265

アンケート項目は、総理府が昭和61年度に実施した「子供と父親に関する国際比較調査」の中から、親に対する認知、接触の実態等を質問した項目(例えば、お父(母)さんはどんな人か、どんなふうにしてほしいか、どんな話をするか、欲しいものをよく買ってくれるか、大切にしていってあげたいと思うか、困った時助けて

くれると思うか等)を抽出し、それを父母両方について回答できるように作り直したものを使用した。調査方法は、学校下の集団、無記名で行った。

く結果・考察

今回は、同じ質問に対する父母それぞれについての子どもの回答結果を比較検討したものを中々に述べる。

1. 子どもと親の接触について

「お父(母)さんとどんなことを話しますか」……父母との日常的な会話の内容を質問した回答結果が表2である。

表2. 父親、母親と子供の話題 %

	父親	母親
第1位	学校のできごと 51.6	学校のできごと 76.1
第2位	学校の成績や勉強のこと 47.3	学校の成績や勉強のこと 68.3
第3位	遊びやスポーツのこと 42.7	自分の友だちのこと 67.0
第4位	自分の友だちのこと 38.7	自分の将来のこと 49.2
第5位	テレビ番組のこと 36.2	テレビ番組のこと 43.6
第6位	自分の将来のこと 35.9	家族のこと 40.6
第7位	世の中で起こったこと 28.3	遊びやスポーツのこと 40.1

第7位までに入っている項目は、父に対する「最近世の中で起こったこと」、母に対する「家族のこと」を除けば同じである。しかし話している答えに子どもの割合からすると、母親との対話の内容が父親とのそれと比較してはるかに多岐にわたっていることが明らかである。「学校のできごと」「学校の成績や勉強のこと」と1・2位の順位が父母とも同じであるが、3位は父親に対しては、父親の好むような内容の「遊びやスポーツのこと」、母親に対しては、母親が関心を持ちそうな「自分の友だちのこと」となっている。また「自分の将来について」の項目については、他の項目が年齢が高くなるにつれて減少しているにもかかわらず、逆の増加の傾向を示している。「ほとんど話をしない」「全然話をしない」と回答した子どもは、父に対して16.2%、母に対して4%いるという結果となった。父と話をしない理由として「話すことがない」とした子どもが59%と最も多く「話す機会がない」

28.5%,「わかってもらえない」11%の順になっている。つまり父と顔を合わせていても話をしない。また父子間での生活時間のすれ等から生じていると思われる話す機会のなさなど、父親と同一屋根の下に住んでいながら、父親不在の傾向がうかがえる。このことは反面、母子の密着を生んでいるのではないかと考える。

2. 子どもの抱いている父母のイメージについて
 「お父(母)さんはあなたから見てどんな人ですか」に対する回答結果が表3である。

表3. こどもの父親, 母親イメージ %

	父親	母親
第1位	仕事熱心 61.1	話しやすい 58.3
第2位	やさしい 43.9	やさしい 51.5
第3位	頼りになる 39.2	口うるさい 44.3
第4位	尊敬できる 37.4	頼りになる 40.2
第5位	がんばりや 37.0	思いやりがある 39.3
第6位	話しやすい 34.1	がんばりや 38.4
第7位	頭がいい 29.9	仕事熱心 38.2

父親では「仕事熱心」とする子どもが61.1%で1位、以下「やさしい」43.9%、「頼りになる」39.2%の順である。母親については1位が「話しやすい」の58.3%であり、「やさしい」「口うるさい」と使っている。母親を話しやすい存在として認識しているという結果は、先に述べた母親との対話の割合の多さを裏づけるものであると思われる。父親の「がんばり」「自分勝手」母親の「口うるさい」は年齢が高くなるにつれてかなり増加している。

3. 父母に対する要望について

「お父(母)さんにどんなふうにしてもらいたいですか」-----
 父母に対する要望についての回答結果が表4である。父親に対しては1位、母親に対しては2位の「約束を守ってほしい」は約3割の子どもが要望している事柄

表4. 父親, 母親に対する要望 %

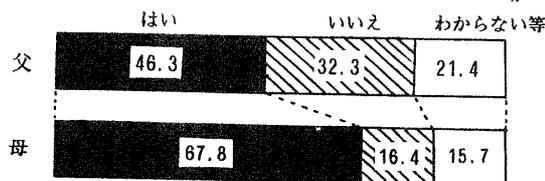
項目	父親	母親
約束を守ってほしい	31.2	29.5
お父(母)さんとちがうことを言わないでほしい	11.1	10.7
子どもあつかいしないでほしい	9.7	12.6
やるなど言ったことを自分でやるのはやめてほしい	23.6	17.8
もっといっしょに遊んでほしい	24.5	18.2
もっとよく(わたし)のことを考えてほしい	10.4	12.6
もっと自由にさせてほしい	22.7	31.3
わからない・不明	31.1	32.8

である。年齢が高くなるにつれて減少してはいるものの、子どもにとっては重要なことと思われる。親に対するイメージと要望とを重ねてみると、両親とも仕事、家事等に追われ子どもとの約束が守れないことがしばしばあり、また父親は、時間的な余裕がないため一緒に遊ぶことが少なくなっていると思われる。母親については、話しやすいことから子どもに対していろいろと口うるさく言うため、「もっと自由にさせてほしい」が「約束を守ってほしい」を抜いて1位となっていると考察する。

4. 子どもが認識している親の態度について

「お父(母)さんは、～しなさい、～してはいけません」とよく言いますか」-----
 日ごろよく命令されているか否かについての結果が図1である。父と母との元検定の結果、2%水準(10.20)で有意差が認められた。父親に比べ母親から命令されていると感じている子どもが多いと言える。

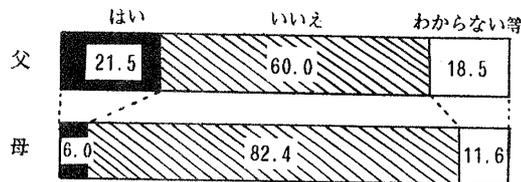
図1. 「～しなさい」とよく言いますか %



5. 子どもが親に向けている感情について

「お父(母)さんとは話にくい気がする」-----
 父母との対話がスムーズに行えているかどうかについては図2に示すような結果となった。父親と「話にくい」としたのは21.5%あり、母親の6%とはかなりの差がある。父とは話にくいと感じているものは、年齢が高くなるにつれて増加しているが、母に対しては逆の傾向がうかがえる。

図2. 父とは話にくい気がする %



<まとめ>

今回は父母間で特徴的な項目を抜き出して考察した。父親については、仕事熱心であり口出ししないやさしさがある反面、話にくい等の疎外感のある父親像として認識されている。一方母親については、話しやすく日常的な会話もかなりはずむやさしいイメージはあるものの命令が多く口うるさい存在として子どもに認識されているということが明らかとなった。